



農研機構 農村工学研究所

National Institute for Rural Engineering

- 研究者の横顔 -

北川 巖 (KITAGAWA, Iwao)

主任研究員

1969 北海道上川町生まれ

1994 北海道大学農学部 卒業

// 北海道立中央農業試験場

2008 農研機構 農村工学研究所

現在 // 農地基盤工学研究領域水田高度利用担当

研究者の横顔

<興味>

私を研究者に育ててくれた環境について少し振り返ってみます。

私は、安全・高品質・おいしい農産物を作るため農地の質を最適化する技術について、「農業」を実践しながら「研究」しています。私の研究の柱である土壌などの自然科学に興味を持ったきっかけの1つには、三浦綾子さんの小説「泥流地帯」があります。この小説は、執筆にあたって緻密な調査が行われており、研究者が好みそうな印象的な小説でした。若き日の私は、この小説を読み、自然災害や社会的逆境に立ち向かう人々の志に共感。その直後に、小説の中で話題になっていた農業試験場の研究員の報告書を古本屋で偶然に入手しました。この出来事により、農地の土壌への興味を深め、土壌の物理性だけでなく化学性の研究に取り組みました。数年後、この小説の舞台となった泥流地帯で農業的な問題が発生し、その対策技術を開発して無事に解決。記憶に残る研究でした。この本への出会いや分析手法の習得などの流れは、先輩との様々な話や論議、連携が助けになりました。研究者にとって出会いは、大切だとしみじみ思います。

<人>

私の周りには、「北海道のお米を良食味化」、「人工衛星で米のおいしさを測る方法を開発」、「小麦の品質基準を作り十勝の小麦を高品質化」した様々な研究者がいました。先輩から学んだことは、人の「志」・「信念」・「地道な努力」は、社会を変えることができるということです。先輩らは、連携して、地道ですが着実に課題を解決していきました。「猫さえもまたいで食べないお米」から「なまら美味しいお米」に、「十勝の小麦」は海外産に負けない「高品質」に変わりました。人の思いは、地域に力を与えることができると確信しています。

<農業が輝く>

先日、農家ができる排水改良技術を開発して実用化しました(写真)。好評、販売中です。これからも農家目線のリーズナブルな技術開発で「農家が笑顔になる」よう努力いたします。

また、「未来の農業が輝く」ためには、多くのサポーターが必要です。中年を迎えた私は、農業のサポーターが増える「きっかけ」を作っていきたいと思っています。



写真 新開発の排水改良機「カットドレーン」

成果情報：

http://www.naro.affrc.go.jp/project/results/laboratory/nkk/2013/13_001.html

カットドレーン製品情報：<http://hokkai-koki.sakura.ne.jp/>